

2020年度第6回経営協議会議事要旨（案）

- 日 時 2021年3月22日（月） 15:30～17:05
- 場 所 Zoomによるオンライン会議
- 出席者 田中 雄二郎学長、
氏家 純一委員（学外委員）、遠藤 信博委員（学外委員）、
河村 潤子委員（学外委員）、福田 誠委員（学外委員）、
佛淵 孝夫委員（学外委員）、宮崎 隆委員（学外委員）、
山口 武兼委員（学外委員）、山口 寿一委員（学外委員）
渡邊 守委員（改革・連携担当理事）、
若林 則幸委員（教育・国際交流担当理事）、
大川 淳委員（医療・情報担当理事）、
木村 彰方委員（研究・評価担当理事）、
今村 聡子委員（事務総括・男女共同参画・障害者雇用担当副学長、
事務局長）
- 陪席者 瀬下 明学長特別顧問
鐘江 康一郎理事（IT化・業務改善担当）、
藤谷 茂樹監事、岸上 恵子監事、廣川 和憲オープンイノベーション
機構総括クリエイティブマネージャー、
永田 昭浩総務部長、米澤 聡司財務部長、柴田 大施設部長、
秋葉 泰樹医学部附属病院事務部長、
今泉 静雄歯学部附属病院事務部長、白谷 正洋戦略企画課長

○ 確認事項

1 2020年度第5回経営協議会議事要旨（案）について

田中学長から、2020年度第5回経営協議会議事要旨（案）について、資料1に基づき確認を行い、原案どおり承認された。

○ 審議事項

1 2021年度当初予算（案）について

米澤財務部長及び高見澤財務部次長から、2021年度当初予算（案）について、資料2-1から資料2-3並びに参考資料1から参考資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

福田委員から、新型コロナウイルスに係る補助金の見込み額の妥当性について質問があった。この質問を受けて、高見澤財務部次長から、第3次補正予算の内容や、空床確保料等を基に見込み額を算出している旨の回答があった。

宮崎委員から、本年10月に予定されている本学附属病院の一体化はどの程度の事業を行うのか質問があった。この質問を受けて、大川理事から、10月は機能的な一体化を目指しており、歯学部附属病院の入院病棟に医学部附属病院と同じ電子カルテを利用することや、中央診療部門の統合に係る経費について、予算を組んでいる旨の回答があった。

遠藤委員から、新型コロナウイルスのワクチン接種に係る対応で支出が発生するのではないかとの質問があった。この質問を受けて、大川理事から、ワクチン接種は外注を基本としており、これについて東京都から補助を受けられる予定となっている旨の説明があった。

さらに遠藤委員から、指定国立大学法人に指定されたことに伴い、研究の質を高く保つための予算について質問があった。この質問を受けて、渡邊理事から、若手研究者をサポートするYoung Investigator Support Centerに係る支出が該当する旨の説明があった。また、木村理事から、文部科学省の国立大学経営改革促進事業が採択されており、2020年度及び2021年度は当該補助金を指定国立大学法人に向けた改革に充てる旨の説明があった。

氏家委員から、機能強化棟の整備が完了したら借入金の項目は無くなるのか質問があった。この質問を受けて、高見澤財務部次長から、2022年度末に工事が終わり、本体経費に係る借入金の計上が終了し、借入から5年間は利息のみ支払って6年目から元本について支払う予定である旨の回答があ

った。この説明を受けて、氏家委員から、借入金は銀行一行から借りているのか質問があった。この質問を受けて、高見澤財務部次長から、大学改革支援・学位授与機構の貸出事業で借りている旨の回答があった。また、田中学長から、当該事業で借りると建設費の10%を国に肩代わりしていただけるというメリットがあるとの補足説明があり、また一方で竣工から稼働までの半年の間に備品を入れる際に支出が嵩み財政負担となることが懸念される旨の説明があった。この説明を受けて、氏家委員から、機能強化棟の整備の際に積立金から支出をせずに借入れを行う理由について質問があった。この質問を受けて、高見澤財務部次長から、現在の国立大学法人の会計基準では施設整備を目的とした積立を行うことができない旨の説明があった。

瀬下学長特別顧問から、次年度の予算案について審議する際には、全体で示さずに、2020年度はどういった予算でスタートし、新型コロナウイルスへのどのような対策を講じたか、それにより人件費や教育研究経費にどのような変動が生じたのかなど、今年度の実績に関する説明が必要である旨の意見があった。この意見を受けて、田中学長から、次年度の検討に当たっては考慮したい旨の発言があった。次いで、田中学長から、コロナが収束し補助金が削減された際にそれを埋める形で通常診療による収入が増えていかないことを懸念している旨の発言があった。また、大川理事から、今後、新型コロナウイルスの患者が減って元の状態に戻った際に、補助金の削減分を埋めるため入院治療を積極的に増加させていきたいと考えている旨の説明があった。また、鐘江理事から、本学附属病院におけるアンケート調査の結果を見ても、新型コロナウイルスの収束後にコロナ前よりも良い医療の提供を期待できるとの発言があった。また、田中学長からコロナで上がった知名度も追い風にして、新しい医療としてセカンドオピニオンのオンライン化等について検討を行っている旨の発言があった。

福田委員から、2022年度から第4期中期目標・中期計画期間となるので、2021年度に当初予算から変動があったものを、将来のためにシミュレーションに取り入れていただきたい旨の意見があった。

河村委員から、予算の見える化を行う意図についての質問と、予算の見える化を行う際は、セグメント別に細かく見せることによって最終的に大学として何を達成したいのかを伝えていく必要がある旨の意見があった。この質問を受けて、田中学長から、附属病院で部門別管理計算を導入し見える化しているように、教育研究診療についても互いに認識を共有し協力しやすくする目的であること、部局に対しては注意深く説明し意見を聴きながら進める旨の発言があった。

2 第3期中期目標・中期計画に係る令和3年度計画（案）について

木村理事から、第3期中期目標・中期計画に係る令和3年度計画（案）について、資料3-1及び資料3-2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

3 役員退職手当の業績勘案率（案）について

田中学長から、理事の役員退職手当の業績勘案率（案）について審議願いたい旨の提案があった。該当理事の退室後、田中学長から、資料4-1及び資料4-2に基づき説明があり、審議の結果、理事の役員退職手当の業績勘案率について決定した。

○ 報告事項

1 附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について

大川理事から、附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について、資料5に基づき説明があった。

2 今後の稼働見込み及び財務見通し等について

米澤財務部長から、今後の稼働見込み及び財務見通し等について、資料6に基づき説明があった。

3 第4期中期目標・中期計画の検討状況について

木村理事から、第4期中期目標・中期計画の検討状況について、資料7並びに参考資料1及び参考資料2に基づき説明があった。

4 2021年度管理・運営体制について

田中学長から、2021年度管理・運営体制について、資料8に基づき説明があった。

5 学部入試の実施状況について

若林理事から、学部入試の実施状況について、資料9に基づき説明があった。

(以上)